

情静の舞！曾我龍城 桜井の歌！鈴木鶴岡  
川中島！三木紋纒 弁の内待！森鶴堂 西  
郷と勝！田辺錦波 物狂！吉成登城 吉野  
の奥！鈴木鶴編 澤陽江上段！関口龍城  
桜狩！古家絃風 吹雪の敵！生田晃堂 古  
曲合奏！有志

○：各派琵琶演奏会 三月二十八日夜東  
京上野本牧亭（世話人鶴田錦史外） 噺全  
日空機！前田洲月 白虎隊！古田耕水 井  
伊大老！都錦穂 天目山！浅野晴風 舟弁  
慶！中谷襄水 若き教盛！原島旭粧 戦艦  
大和！若水桜松

○：第一回岳城流弾奏会 三月二十九日夜  
札幌上野楽器店大広間（主催城山会北海道  
支部） 噺結城先生・白虎隊！中井岳鳳  
桶狭間・彰義隊！広川岳楓 吉野山懐古・  
鉢の木！山岸岳泉 光秀の最期(下)・同！  
横山岳玲

○：正派薩摩琵琶演奏会 三月三十日昼名  
古屋短歌会館（主催名古屋薩摩琵琶協会）  
桜狩！橋谷胡舟 城山の月！青島晃苑 似  
俄！横山葛水 送別！原晃道 桜井の駅！  
加納岳蓉 月下の陣！大石晃月 義貞参内  
！鎗田岳道 花紅葉！染谷晃岳 月下花前  
！野中靖州 足柄山！山田岳叢 菅公！伊  
藤見嶺 桶狭間！橋谷岳 湖水渡！小野  
鶴彦（以下来賓）龍の口！水谷浩水 小栗

酒！岩見旭香 未定！山内兼光

○：藤波桜華演奏会 四月十一日夜東京日  
本橋才一証券ホール（主催同女史・後援錦  
びわ宗家、同協会） 秋色桜！藤波桜華  
五楽の橋！水藤五郎、小沢錦彌 推葉の月  
！小島櫻舟 金剛石！藤波和永（四才）  
幻想澤陽江！津谷桜佳 白虎隊！林櫻豊  
大高源吾！新部桜水 本能寺！都錦穂 金  
剛石！藤波白林（五才） 時雨會我！水藤  
錦穂 安達ヶ原！鈴木密水 曲垣平九郎！  
藤波 桜華 琵琶舞羽衣！立方中村勘春、  
中村恵子・歌平野鉦水、大野偉水、水藤五  
郎・絃藤波桜華、新部桜水、都錦穂、水藤  
錦穂・絃胡弓木村雅趣雨・振付中村冠子  
外に詩吟七題

乃木將軍母堂慰靈  
顕彰碑除幕法要大祭に奉納  
日本民主同志会主催の首題が、佐藤総理  
大臣を始め四百人の貴頭を顧問に頂き、大  
祭委員長松本明重氏司会のもとに桜花らん  
まんの四月十三日十一時から、梅田雲浜、  
坂本竜馬、中岡慎太郎、木戸孝允など多く  
の明治維新志士の眠る京都靈山護国神社境  
内で厳肅裡に斉行されたあと各種伝統芸能  
の奉納があり、琵琶は水内堤水女史が京都  
琵琶協会を代表し「河内の宿」を演奏して  
將軍母堂 將軍夫妻並に勤皇志士の霊を慰めた。

あ とが き  
目に青葉、山ほととぎす、初かつ  
を、毎年新緑の頃になると必ずこの  
一句が頭に浮かんで来る。花のいの  
ちは短くて三月下旬から四月はじ  
めにかけて全国的に襲った異状寒波は開花を一  
週間もおくらせアレイアレイと浮かれている  
内に散ってしまつて早くも緑したたるすがす  
がしい五月を迎えた。花が終ると京洛三大祭  
の一つ葵まつりが本月中旬神々しいいでたち  
の行列で延延長蛇の陣を張って上加茂神社か  
ら下鴨神社へねり歩き彌が上にも祭り気分を  
掻き立てる。●本号は記事が極度に幅狭し各地  
からの貴重な数篇の御寄稿を割愛して来月号  
以降に譲らざるを得ない結果となりいつもな  
がら執筆者に対し申訳なく思っている。どう  
か悪からず御諒承乞ひ。●既報の通り「京絃」  
は六月号を以て創刊十五周年を迎えるがこれ  
について読者の方から既に数通の祝詞を頂戴  
して感銘している。●が未だ外にもお寄せ下さ  
る方も沢山おありの事と期待している。この  
際成るべく早くお書き下さって常に琵琶文  
化の進歩向上に熱意を燃やす「京絃」を激励  
され併せてその前途を祝福して頂きたくよろ  
しく御願ひ申上げる。

昭和四十四年五月一日発行（非売品）  
編集者 植村 寛水  
発行所 京 絃 社  
京都市北区衣笠西馬場町二九  
和田才一ビル 江〇一〇一  
電話 (462) 八三二六 46二八七六番  
内線 二〇一

琵琶  
機関紙

京

絃

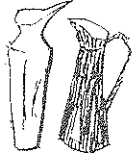
才一七九号

京絃社

狂醉亭漫録号外特集

NHKのTV「天と地と」偶感(下)

謙信と信玄の一騎討ちは ほんとなのでしょうか



謙信の死後甥の景勝が嗣ぎ、秀吉の信任厚  
く五大老の一人となり、会津百万石に封  
ぜられます。家康の天下になるや睨まれて米  
沢三十万石から十五万石と移封減封され、そ  
の後吉良上野介の息子が養子になった時に、  
赤穂浪士討入りで実父上野介が殺害されたの  
に一矢も報わなかったとて、幕府の若年寄連  
中から「取潰し然るべきかと存候」とまで建  
議された事もあります。明治になって伯爵  
に列せられ、現在は東京大学の野球選手をし  
ていた方が当主に敵存され、とに角四百年連  
綿と続いている状態ですから、コト上杉に関  
する事はウカンに言えませんが、こんなことも  
影響しているかも知れません。

信玄五十三歳の時痛で亡くなります。三年  
間は死去を秘せよと遺言しますが、総て部下  
との合謀制をとって来た関係もあってまたた  
く中に死んだ事がわかり武田衰亡の始めとな

森 中 義  
ります。しかし勝頼敗退の最大の原因は新兵  
器鉄砲に対する認識不足です。  
戦国時代の小銃は有効射距離が二十米位の  
ものです。一発撃ちそこなうと弾をこめて火  
繩の灰を吹き落すまでに相手が手許に斬りこ  
んで来ますから、余り鉄砲を重視していなか  
ったようです。

この鉄砲の弱点を補うために信長は新戦法  
を案出しました。伏射隊射立射の三人一組で  
これが散兵線を構成します。命令一下伏射組  
が発砲すると直ちに弾込めにかかる。その空  
白時に隊射組が発砲し次は立射組が撃つ。そ  
の間に伏射組の装填が完了して発射する。し  
かも射撃兵の前面には敵が射手に斬りこめな  
いように柵が設置してあるという勘定です。  
柵の前で近くばよって眼にも見よなんて古風  
な時代があった見得を切っているうちにスト  
ドです。これで勝頼軍がやられたのです。

謙信は死の直前傘下の将兵に関東征討の命  
令を出します。恐らく関東軍は鐵袖一触たと  
思います。関東を制圧して越後に凱旋するか  
一氣に東海道を西上し京都に向うのか、これ  
は謙信より知る由もありません。若し西上す  
れば信長との衝突必死です。この時信長の鉄  
砲は三千。謙信は三百挺です。しかも謙信は  
信長の長篠戦法を知っています。謙信がもう  
一年長生きしていたら、面白いことになっ  
ていたでしょう。

ピンコで片目の大軍師山本勘助の話は、子  
供の時によく聞いたものです。武田軍百戦百  
勝の成果は、一ツにこの勘助氏の画策による  
ものとの世評でしたが、田中博士の研究で、  
名もない一雑兵に過ぎない事がわかりました。  
海音寺も史実に遠いと勘助さんを取上げら  
れませんでした。但し海音寺氏は謙信と、謙  
信が師父とも仰ぐ幕僚宇左美定行の娘乃美と  
の悲恋物語をものにしていられます。史実に  
あろうがなろうが、これはよい事だと存じ  
ます。謙信から戦争を引けば何が残るでしょ  
う。乃美とのロマンスはせめてもの淡彩です。  
謙信は大戦術家であり、勇猛果敢な実戦家  
です。才四次川中島戦に際し所謂武田の啄木  
鳥戦法のウラをかき、八千の精兵をして一糸  
乱れず千曲川を渡河せしめ、突如として武田  
の前にあられ信玄を呆然たらしめたあたり  
は水際たったもので、山陽が鞭声肅々夜過河  
の名詩を作る筈です。

謙信が信玄に塩を贈った話や、信玄の死を聞いて落涙したとかの逸話は信頼出来るウラ付けがありませんし、そんな芝居気のある人物でもありません。己れを持するに敵で、真面目な人柄には非常に好感が持てます。

信玄の軍略と政治については、卓越していると思えます。常に敵と他を噛み合わせ自己の戦力の消耗を避けたり、富士川の信玄堤築堤の手腕といい、単なる武將ではありません。信長が新兵器の導入利用に最も早く着眼したのは堺に近い地形上の結果だけではないでしょう。火薬の原料の硝石の一手買占めを計ったり本格的です。安土城が近代城郭の規準となった点など考えますと謙信信玄に比して進歩的でしたかも独創的です。

信玄死して五年目に謙信がおトイレで倒れ一言も言わずに五日目に死去します。卒中です。行年四十九歳。それから四年後に四十九になった信長の本能寺事件があり、その後信長より二十年少の秀吉が天下をとるのは御承知の通りです。

年百年中戦争ばかりして居て、畳の上で死ぬ相でない信玄と謙信が畳の上で死に、二人の死によって畳の上で死ぬような信長が畳の上で死ぬなかったという事は、所詮人間の明日は無常である事の好例と申せましよう。

(完)

「平家物語」の物語 (二五)

逆櫓(さかろ)



さる程に、八嶋には隙(ひま)行く駒の足は疾くして正月も立ち、二月にもなりぬ。春の草くれて、秋の風に驚き、秋の風歇んで、又春の草になれり。送り迎えて既に三年になりけり。

平家にとって運命のときが来た。屋島の戦いから壇の浦の合戦へ。かって「平家にあらざれば人にあらず」と云われたその平家が僅か二ヶ月間のこの合戦で、海の藻屑と消え去る。栄光の人も末路は佗しい。

一の谷の戦いで平家は既に決定的打撃を受け、半身不随の状態にまでなっていたが、それでも尚抵抗をやめなかった。一時は源氏を窮地に追込むほどのエネルギーを取かえす。京の地をいま一度踏みたいという執念の力だろうか。

屋島の戦いまでの平家の動きを追うと「福原を落ち、西海へ走って以来平家の拠点は四国の屋島だった。一の谷では敗れたが、総司令官の宗盛は安徳天皇を奉じて屋島城に居る。関門海峡の彦島には一の谷で生きのびた知盛が頭張っていた。源氏のウイークポイントで

あった海戦、瀬戸内海を制していることが平家の頼みの綱だ。相手は頼朝だけではない、黒幕に後白河法皇がいる。一の谷では法皇の「平和提唱」に気のゆるんだところをこっぴどくやられて、今更のように策謀の深さに舌を巻いた。その法皇から、一の谷で生捕られた重衡と交換に、三種の神器の返還を要求して来たのを拒絶出来たのも「水軍のバックがある」という考えがあったからである。

元暦元年(一一八四年)八月、平家追討の命を受けた範頼が西海に下った。これも平家にとって幸いした。戦にたけた義経をなぜ使わない? 義経が同月法皇から左衛門少尉に任ぜられ、法皇に接近したのを頼朝が怒ったのだ。頼朝と義経の間に「ヒビ」がはいったとの情報は、平家の首脳陣も既に入手していたに違いない。

範頼勢が本州の西端に達した時、平家は得意の水軍を以て行盛を備前の兎島に上陸させ、源氏方の連絡を断つ戦法に出た。しかも範頼の軍勢は長門(今の下関、萩あたり)に居て折からの深刻な飢饉に泣いた。庶民の暮しに殆ど触れたことのない平家物語の作者が「人民百姓等源氏の為に悩まされ、平家の為に亡され、家かまどを捨てて春は東作の思ひを忘れ、秋は西取の営みにも及ばず」(巻十、藤戸)と訴えている。範頼の家来の中に故郷を慕い、私かに鎌倉に逃げ帰ろうとした者も居た。平家にとって最後の名誉挽回のチャンスが訪れたように見えたと、翌二年正月、範

頼ではいかん、とみた頼朝は義経を平家追討の大將に起用した。

義経は疾風の如く屋島に向った。平家の根拠地屋島は牟礼古高松と干瀉を隔てて相対し、東は入海が深く之に面して行宮を構えていた。此所に平家は兵船を集結していた。平家にとって義経は確かに恐ろしい存在だ。過去に二度までも奇襲作戦でやられている。然し今度は大丈夫、義経と雖も瀬戸内を渡って来なければならぬ。海戦ならば負けはしない!

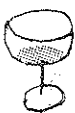
事実義経は瀬戸内海を渡って来た。しかも又もや意外な奇襲戦法で。平家の運命は刻一刻と迫っている。

平家の根拠地屋島は当時は牟礼古高松と干瀉を隔てて相対し、東方は入海が深く之に面して行宮を構えていたという。今はこの入海も相引川という名前の川で残っている。高松から琴電に乗りテール型をした独特の溶岩台地屋島の姿を眺めながら八栗駅でおりる。ここは高松市を外れた香川県木田郡牟礼町でひなびた街だ。屋島の「前線拠点」の総門の跡が駅の近く、明治末牟礼保勝会が建てた脊の高い「源平合戦総門碑」がある。「拒門東南十三町、正門二町、正北五町」とも刻まれている。行宮を中心に入海を隔てたこの総門辺りまで屋島城も相当なものだったようである。

古代史に於ける

日本建国の謎(四)

弓削 仁 正



崇神天皇がニギノミコトで南鮮任那の辰王であるとすると、辰王なる大王は一体何処から南鮮大王になったのか。当時の文献は甚だ心細く筋の通った記録は無いが、隣国百済の記録によると辰王は南満の抹余族(ツングーズ族)の出入りし、満州から高麗を経由して弁韓に來た貴族で、弁韓へ來てから馬韓の支持を得て弁韓の大王になったようである。従って正確には崇神天皇が辰王その人か、或は辰王の子孫なのか、その辺のところは判らないというのが正しいと思う。

次に「神武天皇」は誰であるかという問題を調べて見たい。然しその前に今一度整理をする意味で、次のことを再記して参考に供したいと思う。即ち崇神天皇は南鮮の任那(釜山)を本拠地として、天津神を引卒して北九州に進撃占領、才一回の日本建国を果たし、ミヤキノスメラミコトと呼ばれると同時にハソクニシラススメラミコトの称号も与えられた。そして「旧唐書」の日本国条に「日本(任那)もと小国、倭国(北九州)の地を併す」とあるのは、このことを指したものであろう。

結 論

さて問題の神武天皇であるが、紙数もないので先を急ぐと、崇神天皇の子孫で崇神天皇が北九州を占領して約百年後に、大伴、久米物部、中臣等の天皇側近の武將や占術師を連れて近畿に征めたのぼって來た天皇がある。崇神天皇五代の子孫神武天皇である。従って神武天皇即ち神武天皇である。神武天皇は自ら甲冑を着て各地に転戦しながら、瀬戸内海を経て難波に上陸された。然し胆駒(生駒)の向うには豪族の葛城族、平群族、蘇我族、殊

とき	六月一日(日)正午開演
ところ	安井金比羅宮会館 京都市東山区東大路通松原北入 (市電、市バス東大路松原下車)
演奏	各流派合同演奏会
主催	京都琵琶協会
協賛	会員の外札幌、静岡、京都、大阪の 名手協賛出演
入場	無料

に天津神を自称する強敵長髓彦が居たため容易に大和に入ることが出来ず、河内に仮宮殿を造り才一皇子仁徳と共に「河内王朝」を建国した。従って神武天皇の子孫である仁徳、履中、允恭各天皇の墓は神武と共に大和の地には無く、河内平野にある訳である。尚河内に王朝を築いた神武天皇は、難波の海辺で神を迎えて即位式を挙げられた。これは現在の即位式にも海神を迎える儀式が伝えている。又神武天皇の河内王朝は、いわゆる「倭の

「五王」として遠く勇名を中国、朝鮮にも馳せ、又応神天皇は各地の八幡神社に武神として祀られていたが、就中世界最大の古墳として大阪の菅田に直径四一七米の応神陵として仁徳帝の御陵と共に、その王権の素晴らしさを誇っている。現在の仁徳陵は径四八六米で応仁陵より大きい。建設当時は応神陵は径六〇〇米あり正に面積に於て世界最大であったが、徳川期に外壕を田地に無料払下げた為、今では仁徳陵の方が幾分大きく、エジプトのピラミッドも遠く及ばない広さである。

応仁、仁徳、履中等の巨大な古墳は当時の河内王朝の財政の豊かさ、土木技術の進歩、一つの御陵に四ヶ年と二十万人の奴隷を要したといわれるその実力からみて、応神天皇は正に才二の建設者にふさわしい貫禄があり、威厳があったと云えよう。

因みに実在した天皇の中で「神」の贈り名のあるのは崇神、応神の両帝のみなのも、いわれなきにしろあらずと思ふ。架空の天皇で「神」の字のあるのは神武天皇のみである。後書きとして一寸云いたいのは、耶馬台国に於て、神話伝承の解明に就ても、崇神、応仁両帝に關しても沢山書き残した気がするが、歴史のシンボリズムではないから後日に譲りたい。只、日本の神話は日本だけの専売特許ではなく、東南アジアや朝鮮等にも同じようなものがあることを申添えておく。(完)

(四回に亘って掲載した弓削仁正先生の執筆は本号を以て一応完結したが史実ものを主として演奏される琵琶人に多少でも参考になれば幸甚である。(一係一))

切抜帳から (三九)

平井春嶺

終戦の真相 (一七)

一〇、八月十四日の御前会議の経過と、

天皇陛下の御仁慈 (一)

さて、こちらから十日の早朝打ちました電報に対する返事は仲々参りません。しかもこのことは公表致して居りませんので、東京市内の各所では家屋の強制疎開の為家を引倒して居ります。私(追水久常氏以下同じ)は身を切られるような気が致しました。

流石に米軍の空襲も十日、十一日には御座いませんでした。十二日朝サンフランシスコの放送によって先方の回答の内容を知り得たのでありますが、正式の経路を通ずる回答は十三日朝到着致しました。

この間に於ける諸般の情況は詳しく申し上げておる時間がございませんが、天皇陛下は皇族・重臣元帥・軍事参議官などを次々にお召しになってお考えをおさとしになりました。この際、東条大将は陛下にもう一度御考え直しを願ったという風に聞いて居ります。もっとも重大な問題としてこういうことがありました。それは十三日でありましたが、朝日新聞の柴田という記者がやって参りました。今大本宮発表がありました。午後四時に放送及び号外を出せということです。とい

なる意思によって天皇制を維持するかどうかきめよというのはおかしい。天皇の御地位は神ながらきまっていますものであって、国民の意志によってきまったものではないのであるから、これでは国体に反するといふ議論をされました。そしてこれももう一度はっきり先方にたしかめよというのであります。(以下次号)

て持ってきたのは「皇軍は新に勅令を拜し、米・英・ソ・支四カ国連合軍に対し新なる作戦行動を開始したり」というのであります。私はびっくりしました。現に進行中の日本国家の方針とは全く反対のものでありまして、若しこれが公表されたらそれこそ如何にあとであれは間違いであったと言っても、とても間に合わない、とんでもない結果になったと思いました。私は直に陸軍大臣・参謀総長に問い合せましたが、二人ともこれを知らないのではありません。結局陸軍情報部の一大佐が勝手に作って新聞社に渡したものであることが判り、公表予定時の寸前ほんとうに二、三分前に取り消して事なきを得たのであります。この一新聞記者の小さなはたらきが実は日本を救ったのであります。

秘密にして居りましてもだんだんに情報もれますので、私の所には数多くの人が集ります。そして私を激励し或は私を威嚇しました。私はひそかに私の長男に宛てて遺言をしたためました。

十三日には正式回答を議題として閣議が開かれました。先方の回答は長いものであります。したが要点は次の二つであります。

(イ) 日本国天皇及政府の統治権は或る場合には連合軍司令官の制限の下におかれることがある。

(ロ) 日本国最終の政治形態は日本国民の自由なる意志によって決定せられる(即ち国体は日本人がきめるのにまかせる)とい

先方の回答の遅れた理由は連合国間に意見が分れたためであったのです。後で聞きました所でありましたが、ソ連は勿論、英国も支那も天皇制の廃止を主張したが、米国だけ前駐日大使のグルーさんなどの知日派の人々の働きによって、とうとうこういふ回答になったのだそうであります。

あとで米国国務省の役人がきて私に話したのであります。こちら側からの回答に天皇制のことについて留保がついてきたときにはほんとうに驚いた。実に堂々としていて一体これが敗戦国の態度かと思つた、同時に日本には何か含みがあるのではないかと疑つたが、グルーさんなどが鈴木さんの人格からいって決して何もたくらみがあるのではないと言つてがんばつたので、他の国をやつと説得したというのであります。後から考えてみると正に米側側の主張が正しかったわけだつたと申して居りました。

この回答に対して大部分の大臣は、ボンダム宣言を受諾する当然の結果として、国体が変わるわけではないということ、先方が承知したものであるとして終戦に賛成でした。唯陸軍大臣及び両総長はこの回答では明瞭でないから、もう一度先方にたしかめてもつとほつきりした返事が来ればよいが、そうでない限り国体を護持し得るかどうか、明瞭でない以上餉くまで戦争を継続せよと主張した。

平沼枢密院議長などは、先方が国民の自由

演 奏 会 予 告	
日時	六月八日(日)正午開演
場所	大阪市立婦人会館 大阪市天王寺区上汐町六ノ七三 (市バス上本町九丁目下車)
創立二十周年記念	薩摩琵琶演奏会
主催	薩摩琵琶四明会
札幌、東京、横浜、浜松、名古屋、 京阪神、鹿児島の名手多数来演	
(入場無料)	

米子・広島琵琶行

伊吹正陽



京都琵琶協会で、年に一度の琵琶旅行を楽しんでいるが、今年も鳥取県米子から広島を訪れることになり、春雨煙る三月二十一日朝京都駅に中島真水、木村維水、田中颯水、平井春嶺、同夫人、梅原旭濤、中島旭穂、矢

吹華水、伊吹正陽の九人が集合、八時二十一分発の快速電車で大津から乗車の戸倉旭嶺、若宮旭登両氏と合流して大阪発臨時急行「大山」十五号に乗かえ一路米子に向つた。

車中では芸談に花を咲かす者、麻雀に興じる者、持参の琵琶を弾じる者、我不関矣と白河夜舟の者等々それぞれ有効に時を過ごし七時過ぎ米子駅着、三台のタクシーに分乗して効外の皆生温泉幸楽園に着き、先づ岩風呂温泉に飛込んで旅の疲れを流したが、この旅館の部屋には一々力士名がつけられてあり「柏戸」の部屋に入つた者は「横綱だぞ」と悦び入って茶気満々。

食堂は舞台付の大広間で山陰名物の蟹が誠に美味、飲み酔ひほどに深い咽喉の続出で、特に会員合唱の越中おはら節はこの夜の圧巻であった。宴終つて本題の琵琶演奏を始め、龍の口を木村、平井、伊吹の三氏が上中下に分けて演奏した外各人の弾奏が続き十時過ぎ才一夜を終つて就寝した。

翌日は米子駅発九時四十五分「ちどり」一号に乗車、車中では人生古いをカードで行う者や話に夢中になっている者、或は麻雀卓を囲む者などで、列車は定刻十五時五十分広島駅に着きタクシーに分乗して板谷旭邑女史経営のいたや旅館に到着。この日は土曜日のこととて旅館は満員で板谷先生も多忙を極めていられたが、我々一行のため犠牲を払って便宜を計らって下さつた。そして六時過ぎから広島琵琶協会の方々と宴を共にし両協会員

が交々弾奏したが、広島先生の妙技にす  
っかり魅せられたに勉強になったことであ  
った。斯くして興も尽きぬまゝ両協会の  
発展と倍旧の交誼、各氏の健康を祈り合つて  
十時半宴を閉じた。

才三日は広島市内や宮島観光をした。即ち  
朝七時半、観光バスセンター前まで板谷御主  
人に案内して頂いて乗車し先づ平和公園で下  
車、八時十五分に一斉に鳴り響いたサイレン  
により原爆犠牲者の冥福を祈る目録を捧げ、  
涙滂沱の内に原爆資料館に入る。昭和二十年  
八月六日午前八時十五分、一瞬にして目を覆  
わしめる惨状と化した被爆の数々、苦痛をし  
ぶ全身火傷の人々の写真。腹の底から突き  
上げて来る憤りはどうしようもなかった。

新曲 田原坂

作詞 長浜南城

明治十年春三月 陸軍大将大西郷  
征韓論を唱えしも 時の政府に容れられず  
三条、岩倉を初めとし 海外より帰朝せる  
参議大久保甲東は 産業立国の急を説き  
新政府の政策に あくまで振う者あらば  
例え竹馬の友なりとも 私情を捨てて戦はむと  
願する様もあらざれば 議論必竟何かせむ  
大西郷は意を決し 決然職を退けば  
勝海州を初めとし 江藤、板垣、後藤、副島等  
心あいたるますらおは 袖を連ねて退官し  
近衛の将星次々に 桐野、篠原各少将  
村田待従に至るまで 皆その職を退きぬ  
斯くて大西郷は鹿兒島に翼たためて潜みしが  
神風連や萩の乱 佐賀の乱など次々に  
各地に起る反乱に 政府はいたぐ狼狽し  
大西郷の周辺に 遂に密偵を放ちしかば  
血気にはやる若殿原 賊徒の汚名を返さむと  
その数一万数千騎 政府に尋問なさむとて

り、十五時三十六分広島駅発急行「ながと」  
二号に乗車、態々見送りに来て下さった板谷  
先生と別れを惜しみつゝ、帰途についたが、流  
石に疲れたか一同車中でぐっすり眠りながら、  
二十一時九分無事京都駅に着、趣味と実益を  
兼ねた三日間の演奏旅行を終えて解散した。

決死を誓い出陣す  
勝てば是れ官軍 負ければ是れ賊  
男子正に險難を犯すべし  
突進既に鹿兒島を出で  
絶叫して夕べに降る太郎山  
眼下些事(さいじ)たり熊本の城  
手に唾して抜くべし立食の間  
君見ずや南函北函(なんかんぼくかん)道は歴々  
この関(せき)を破らば一敵なし  
雨降り注ぐ田原坂 濡るゝ陣羽を血に染めて  
伊知地池田等十四歳 年末た若き美少年  
わが薩軍は攻撃を 花岡山に集中し  
乃木少佐の率いたる 小倉聯隊を迎えうち  
軍旗を奪い関の聲 意気天を衝く許りなり  
されど官軍の総指揮官山縣有朋は  
例え農村の子弟なりとも猛訓練をほどこさば  
土族の兵と戦いて 何ぞ異なる事あらむ  
国民皆兵を主張して 統卒正しく薩軍を  
撃滅せむと努めたり されば戦い利あらず  
勇将薩原国幹も 遂に名譽の戦死して  
敗戦濃くなりければ 逸見、別府は西郷を  
いたわり続けつき添いて 秋も深める日向路  
の間道伝い越え行けば 千草にすたく虫の声  
憶えばこのたびの戦いに 日頃鍛えし山県  
力を茲に見るものか 死の直前に至るまで  
大西郷は必々と わが政敵をたえつゝ  
村田に従う三百の 生き残りたる精鋭と  
可愛山獄の嶮を越え 鹿兒島さして落ちてゆ  
く 鹿兒島さして落ちて行く  
(昭四三・一一・二八作)

岐阜琵琶同人 本年初の集りを三月二日  
研究 会午後岐阜市松ヶ枝町三越旅  
館で開催、各自の演奏に対し忌弾なく批評を  
交し夕食を共にして和やかに閉会した。  
運如上人、高橋、娘みゆき、片桐、衣川、  
坪内、月に惚ぶ、松原旭翠、菅公、中西将泉、  
延ゆりの塔、熊中旭葵、二〇三高地、高木旭  
昭、新撰組、上梨将水、大物の浦、坂田旭弘、  
堅田落、田中旭照。

輝 絃 会 三月二十一日午後一水会中  
研究茶話会 央、城東、両支部並に錦友会  
の合同で東京浅草吾妻橋会館に於て開催、九  
時盛會裡に終了した。

舟弁慶、杉本淳水、川中島、直井洋水  
桜狩、後藤朝水、井伊大老、佐藤禾水、霧の  
川中島、石崎禊水、静、熊木施水、恩警の彼  
方へ、伊藤馨水、月下の陣、佐藤皓水、鉢の  
木、佐藤禾水、扇の的、国枝咲水、龍の口、  
北沢来水、羅生門、小峰調水、川中島、戸  
戸谷渚水、常陸丸、松本齋水、物狂、朝倉神  
水、重衡、菊地甘水、菅公、松田殊水、羅生  
門、山崎典水、本能寺、角田置水。

日本琵琶振興会 鈴木密水氏主宰の同例  
三月 例 会は三月二十三日午後東  
京新宿の才二尾津ビル六階歌舞練場で開催、  
定刻前既に十数名の会員が集り三時早くも四  
十数人を数えるの盛況を呈し交々壇上演奏が  
続いたが来会者は都内は勿論遠く青森、秋田、

茨木、千葉、埼玉、神奈川等からも走せ参じ  
一般同好者十数人中にはコロンビヤ・オーケ  
ストラの堀口デレクタイ夫妻、台湾国立音楽  
院の劉团长らの顔も見えて一段と賑いを増し  
た。演奏者は本会主旨に添い錦心流、正派、  
錦、筑前の各流派を網羅し夕刻前には橋会総  
師山崎旭翠、錦びわ宗家水藤錦櫻両先生が前  
後して来会され「粟津の巴」を歌錦櫻師、絃  
旭翠師が共演、満場恍惚に春線乱の香に酔う  
如く琵琶楽絢爛の大絵巻であった。

京都琵琶協会 肌寒い春ながら祇園丸  
四月定例茶話会山の桜も漸く三分咲きて  
世は挙げて花に浮かれそめる四月六日午後か  
ら京都徳雲寺の大広間に左記会員参集、同好  
井上女史も久々に来聴されて左記の通り順次  
演奏がありそのあと夕食を共にしながら諸種  
の協議や芸談に胸襟を開いて八時散会した。

伊吹正陽(旅順懐古)、梅原旭濤(粟津の  
露)、古谷寛水(利休の最期)、木村維水(屋  
島の誓)、水内堤水(河内の宿)、平井春  
嶺(蒙古来)、植村寛水(父・乃木将軍)、  
客員吉野洲水(扇の的)、演奏なし、田中颯  
水、中島真水、小林旭光。

(予 告)

▲岐阜邦楽大会 五月四日、十一日両日岐  
阜市日の丸ホールで開催、四日岐阜の薩筑  
各一人、十一日名古屋一水会が各協賛出演  
▲京都琵琶協会五月定例茶話会 五月十一

日(日)午後一時京都千本出水西入徳雲寺(電  
話463六九五二番)で開催、当番幹事戸倉旭  
嶺、中島旭穂両氏、(同好者御来遊歓迎)  
▲女流さつき会演奏会 五月三日(休)屋大阪  
府立婦人会館  
▲新樹会演奏会 五月二十七日夜東京日本  
橋才一証券ホール、鶴田錦史氏主催、全国  
から選ばれた各流派青年演奏家の競演  
▲各流派演奏会 六月一日(日)正午京都安井  
金比羅宮会館、主催京都琵琶協会  
▲薩摩正派演奏会 六月八日(日)正午大阪  
市立婦人会館、主催薩摩四明会

(住居番号変更)  
森 鶴堂氏 静岡市西深草町二十一番  
二十号に。

よもやま (敬称略)

○正絃会三月演奏会 三月十六日午後一時  
東京芝菜根(主催薩摩琵琶正絃会) 吉野  
落二段、浜野錦宝、鉢の木、生田鶴王、武  
蔵野、大和田鶴道、月華、辻靖剛、桜、柏  
木、篁、小松の操二段、遠藤鶴東、小敦盛  
初段、栗原雨竹、幻想薄陽江、仲川秀邦  
城山、池野谷吟岫、水天門、平井春嶺、慕